

神戸のディテール

Detail of KOBE

〈34〉

石坂 春生

写真／杉尾友士郎





ホワイトとブルー
粋な組み合わせ
ライフスタイルを
つくるスギヤで

婦人服飾とおしゃれ小物

スギヤ

本店 / トアロード / 078 (331) 3436
 事務センター/葦合区琴緒町/078 (241) 2291.2
 六甲店 / 阪急六甲ファミリーストア内 / 078 (871) 2733
 池袋店 / 池袋バルコB1 / 03 (987) 0567
 梅田店 / 阪急三番街B1 / 06 (372) 4877
 宝塚店 / 阪急宝塚南口駅構内 / 0797 (71) 5033
 阪急神戸店 / 阪急百貨店1階 / 078 (321) 3521
 心斎橋店 / 心斎橋バルコ3階 / 06 (245) 1316
 芦屋川店 / 阪急芦屋川ファミリーストア/0797 (31) 8193
 宇都宮店 / 西武百貨店1階 / 0286 (35) 0111
 渋谷店 / 渋谷バルコ新館3階 / 03 (476) 1650



写真提供 / WORLD CO. LTD.



コウベレディのための
オリジナルハイファッション

春の風のように
やさしくゆれて…

パリの服飾大使館

Seen 装 苑

装苑大丸前店
三宮町3丁目45/331-7550

装苑センタープラザ店
三宮センタープラザ/331-2038

ブレタ工場
灘区将軍通3-4-24/881-0907



どこまで素敵になるつもり。

大理石のフロアーに織りなす気品ある華やき、
洗練された美しさへのたえない憧れを
ニット・ファッション・ワールドのコレクションに託して
三宮の新しい印象——「リザ」
いまときめきの中でうわさのサロン。

三宮センタープラザ3階



トータルコーディネートサロン
LIZA
PRESENTED BY WORLD CO-ORD

取扱商品案内

★ポーシャル・リザ・ディ・グレイジー・ワールド・コーディネートは
ニット・ファッション・ワールドのブランドです。

poushal 〈ポーシャル〉

ミラノのしゃれた香り、気品あるぜいたくさをシンプルなデザインに
編みこんだ、完成された大人らしさ。粋で小気味よいコーディネート。

Liza di Grey 〈ルイザ ディ グレイジー〉

さっそうと街をゆくあなた、そのフェミニンなプリントが広がって
ゆくみたい。イタリア感覚のみごとな配色が、若さと甘さをほどよく
みせて。

WORLD COORDINATE 〈ワールドコーディネート〉

優しく暖かみのある自然のトーン。ムダをはぶいたシャープなシル
エット。スポーティ&エレガントで描く組み合わせニットの妙。本
格派のためのトータル・スタイリング・コーディネート。

LIZA SALON

- 神戸 / センタープラザ (3 階) ☎078 (391) 6808
- 神戸 / 大丸神戸店 (2 階) ☎078 (331) 8121
- 神戸 / そごう神戸店 (3 階) ☎078 (221) 4181
- 大阪 / そごう心斎橋店 (1 階) ☎06 (271) 2221
- 大阪 / 梅田地下センター かわい ☎06 (312) 4092
- 岡山 / そごう岡山店 (2 階) ☎0862 (33) 1231
- 広島 / そごう広島店 (4 階) ☎0822 (25) 2111
- 広島 / 福屋 (3 階) ☎0822 (47) 6111
- 名古屋 / 松坂屋本店 (3 階) ☎052 (251) 8425

リザ・ファッションサークル

「リザ」ファッションサークルへ
ご入会なさいませんか

あなたとリザをつなぐ「リザ」ファッション
サークルにご加入の方には数々の特典
がございます。詳しくは各店の コー
ディネーターにおたずねください。

- 東京 / 渋谷バルコ (3 階) ☎03 (476) 5369
- 東京 / 松坂屋銀座店 (3 階) ☎03 (572) 1111
- 東京 / 銀座 ビジョン ☎03 (571) 6317
- 札幌 / バルコ (3 階) ☎011 (214) 2210

4月 目次

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

表紙／小磯良平
セカンドカバー／中西 勝

17 神戸っ子'76 / 篠原順子 / 砂野弘武

ある集い/ダンスリールネサンス合奏団
コウベスナップ

1614 神戸の中の情景(4)／文・松原新一／絵・山本文彦
神戸のディテール(34)／石阪春生／カメラ・杉尾友

725 わたしの意見／滝川俊雄

2 / 花柳吉叟
隨想／ハル／カール／實によせて／音應 智／三字 武／小石忠男

432 連載随想(4) / 山田耕筈の処女作曲 / 久山 康
キャンベーン / ファッション都市神戸を考える

ファッション都市創りは人づくりから

40 福富芳美／玉田勝昌／水谷顕介／畑真一郎／川上 剣
経済ポケットジャーナル

43 技術ジャーナル(106)/諸岡博哉

特集 / KOBÉ JAZZ 50年

44 右近雅夫とハートウォーマーズ／油井正一
45 神田のジャズマン／義則忠夫

日本のジャズ発祥地・神戸再考／いソノてルヲ

座談会／死ねまでやつとるやろなア／門脇重博

龍吉／伊藤隆文／末広光夫
神戶のジャズスペース

話題のひろば／キングスコートオープン／「エブソン」新発売／

72 ミス・シンティをご紹介します／大丸元町進出50年
ファッションスポット

78 アンド神戸(4)/ベギー葉山/カメラ・小山 保

110 10
 神戸の俗し物と案内(4月)
 人間模様(第三回)/山口高志/文・重森 守

ある集いその足あと
動物園飼育日記(17)/亀井一成

神戸を福祉の町に(28) / 橋本 明

124 125
K F S ニューズ
フューション
エッセイ / 廣尾謙秀

127 神戸の集いから

ニューヨークからの便り(32) / 竹田洋太郎

134	132
女体百景(45) / 細川 董 / 元・浅野俊一	淀長立見席(51) / 淀川 長治

びつといん

140 13
ポケッ
トジャ
ーナ

144 ひとり歩きのためのヨーロッパの美術館(3)
三人ピカソ自傳作戦(下)/伊藤 誠

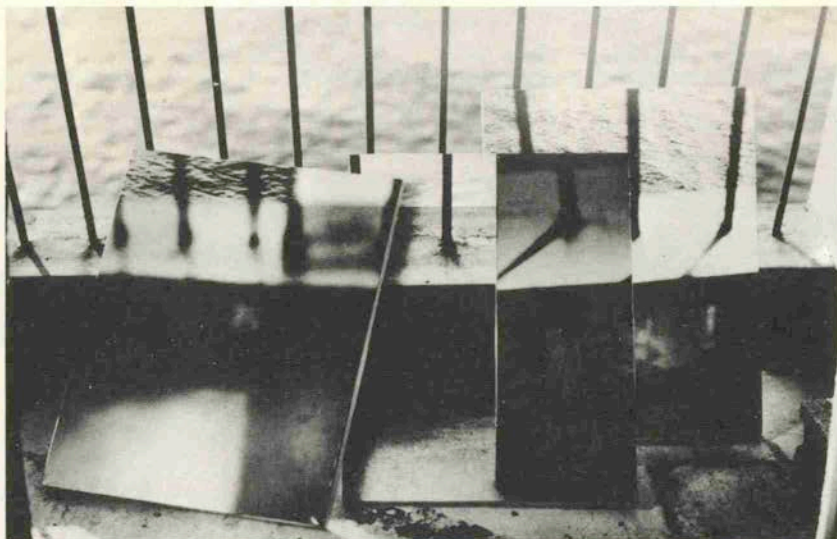
神戸つ子トラベルコーナー

155 156 連劇小説 播州路(4) / 福元早夫 / 絵・山本文彦
トーク&トーク

ボエムドコウベ／安水穂和／カメラ・藤原保之
毎船港／日本最大のコンテナ船「春日丸」

カメラ／米田定蔵／横原保之／山口 清

大正十一年六月一日





1976 / 第6回 / 主催 / 神戸市民祭協会

神戸まつり 5月14日金 15日土 16日日

神戸まつりでサンバを踊ろう！青空の下で唄って叩いて踊るのだ！

神戸まつりサンバメイツ募集中！

★神戸まつりで若もののエネルギーをサンバ
で愉快地元気にいきいきと。パレード参加も。

■お問合せ / 神戸市青少年課 ☎ 078 (331) 8181

月刊 神戸っ子 ☎ 078 (331) 2246



春だから。あなたは、公園で恋に落ちる。

**FASHION
PARK**

ここは、
春のファッション咲き乱れる
女の公園。
そのどれか一つを身につけて
鏡の前に立てば、
そこには、初めて出会うあなた。
「あ」と小さく声をあげて
あなたは、あなた自身と恋に
落ちるのです。
ファッション・パークは、
恋に落ちる公園。

神戸・三宮
センタープラザ・3F

やわらかな陽射しに洗礼を受ける……
かろやかなファッションの季節



毛皮・婦人服・真珠・貴金属

ムラタ

さんちかレディスタウン／神戸市生田区三宮町1丁目1 ☎神戸(078)391-3886
本社／神戸市生田区元町通6丁目35の2 明邦ビル2階 ☎神戸(078)341-8041



☆私の意見

文化の創造につながる 県域放送をめざして

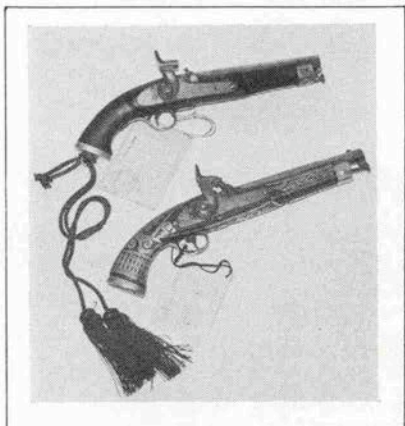
滝井 俊雄

△NHK神戸放送局々長▽



「くらしの中のNHK」といえば、大変おがましいいい分に聞こえますが、今日では、放送は国民の日常生活の中にすっかりとけ込んで、いろんな意味でなくてはならない存在となっていることは事実である。もつとも、NHKだけの力で今日の放送界発展の姿があるとは決して考えていないし、むしろ民放との良い意味での競合あつての結果であると信じている。しかし、ラジオで始まつた放送界が半世紀を経た今日、技術面においても、又内容においても放送開始当時と比べ、目をみはる発展と普及をみていることは歴史の中で明白である。又それぞれの時代の中で果してきた放送の役割りにも、それなりの意義は充分にあつたと考える。が、問題は放送界^{NHK}としてこれから先将来に向つて、多様化する視聴者の要望と期待にどのように応えていくべきか、ということだと思ふ。特に県域ローカル局として如何にあるべきか、すなわち真に地域に密着した放送サービスとは何か、このことを改めて追及し将来への道を確認すべき時機にこそあると考える。特に県内事情を考えると、阪神間の過密都市圏と、過疎条件にある地方圏とは、自づと生活立地条件が異なることはいうまでもない。そうした背景と条件の中で、地域に相応したサービスとなると、単にローカルサービスの一語だけですまされないものがあり、求められる内容が異なることを認識しなければならぬということである。ましてや表面的な情報の提供だけに終つてはならない。送りっぱなしの放送であつてはならない。しかもその情報の内容が県民の日常生活に役立つものとして意義あるものでなくてはならない、と考えるならば、県民の文化生活を豊かにするという目標だけにとどまらず、我々の放送が県民、市民の意識の中から文化を育て、さらに発展させる原動力となるまでに貢献してこそ理想であると考えてる。その意味からも県、市の文化行政と相まって我々の放送が県民文化の創造につながる位置づけとならんことを心から願っているものである。

美術 骨董
古 剣 刀
画 書



管打式短銃 一丁 ¥250,000

鑑定 買入
刀剣研磨その他工作
一ヵ月仕上

是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀 剣
古 美術
骨 董

〒650

元町美術

TEL078-351-0081

大輪田

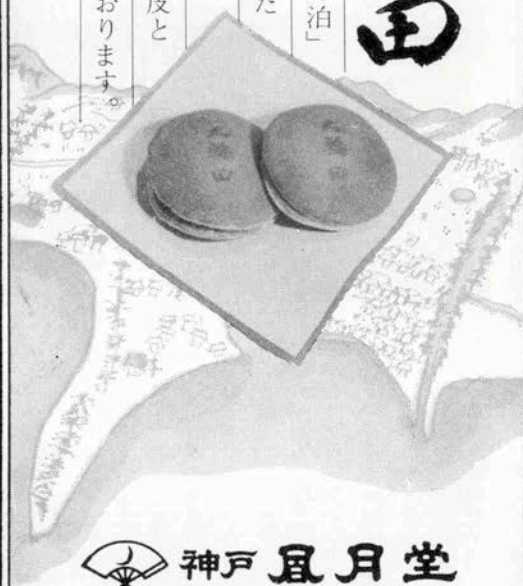
「神戸」の古名「大輪田の泊」

にちなんで名付けられた

大きな円形焼菓子。

ふっくらと焼上った外皮と

つぶ餡がよく調和しております。



神戸 月 月 堂

神戸市生田区元町通3丁目

☎391-2412・321-5555

随 想

第5回ブルーメール賞受賞者による

ふりかえって

齊藤 智

△現代美術△



写真「無題」／齊藤 智 (1976)

神戸に住みついてもう九年になります。九年間といえはばう大な時間のはずです。いろいろなことがあったはずなのですが、僕にはそういったことをふりかえるのがどうも苦手で昼は古道具屋をうろうろ、夕方になるとスタンドで深酒、時には女性とのめぐりあい、そんなグータラのきまりきった繰り返ししか思いおこせないのです。立っているよりは坐っている方が、坐っているだけではなくて酔っている方が、酔っているだけではなくて……。といえはば少々オー

バーですが、それでも古道具屋から古道具屋へとこまめに歩いたあの頃のことを思いだすのです。

須磨の小さな古道具屋と仲良しになったのがきっかけでしたが、茶わんとかドンブリを集めているうちにずるずる……。というのは年のせいでしょうか、あるいは土地柄のためでしょうか。

小壺をみつけ我慢げに酒場などで見せびらかして、あんたのそれは女の代用品だなどとひやかされたりしたその頃です。それとあんなの仕事とどういう関係があるの

だと聞かれて、そういうわけて自分でも考えたりもしたのですが、何かの代用品だとしたら、別に考えつづけることでもなしなどと思ったりしていたわけですよ。

ただものにひかれていくということは自分がうすめられていくような、そのものはだの内側にうもれていくような、そんな快感があったのだと思います。一〇〇年前の醤油注ぎをなでまわすのに飲み終った牛乳ビンには目をくれないのはただデザインの時代性の違いとか稀少価値だけではなくて、ありえない時間をこえた空間性を思わせるためでしょうか。それが逆に時間のかたまりにも見えたりするわけです。いやいやそんなのではなくてやはりもっと淫らなかわりあいのような気がします。

そんな単純な時間を過せたあの頃が今すこしなつかしいのです。そういううかがわりのなかにほんとの土地とのふれあいがあると思いますし、言葉にならないそれらのあじわいは言葉にしたくない僕の仕事との見えない糸でつながっているかもしれませんが。酒の効用が人を単純な時間においやることだったら、そこにも似かよったところがあるかもしれません。

僕が単純なものにひかれ懂れているというのに気がついたとしたら、グータラパンザイです。とい

えば少々カッコイイのですが、やはり僕の淋しがりやゆえに酒を飲み古道具をあさったといった方がもっとさわやかかもしれません。海のように平明に山のように力強くなどとさらにカッコよくいってしまえば、この土地柄は僕にとってのあこがれの茶わんやドンブリかもしれません。

山のふもとの勤め先から百万ドルの夜景のなかを無事くぐりぬければ、わが寝ぐらは波打ちぎわです。さて、この辺でシヤコでもむきながら一杯やろうかな……。

合わせ鏡に 写した時間

三宅 武

△詩人△



二月十七日、夕飯のあとで、長男は、明日、社会のテストがあるから、教科書やドリルをみながらクイズを出してくれ、といいだした。このごろは視聴覚教育がすす

んで、あつというまに過ぎ去るテレビ授業のせいか、長男は社会や理科が苦手なのだ。

親父、間の抜けた表情で、「日本の鉄道の幹線が、だいたいできたのはいつごろか、わかるかね明智君。」

長男やおら立ちあがって

「えーお答えいたします。たしか明治四十二年でございます。」

「明治のころ、政府は民間鉄道の買い上げを進めた。なんでそうしたか、わかるかね二十面相。」

「えー、記憶にございません。」

「お前、そんな言い方どこで覚えたんや。」

「学校から帰ってきて、お母さんとテレビ見とってん。」

実に愉快な視聴覚教育である。

突如私は、自分の四年生当時をまるでタイム・トンネルをくぐったように思い出した。

◇

仕事で、午後五時から六時の間に中央郵便局へ行くことが多い。六番の窓口は、書留郵便を受け付けていて、この時間帯は、栄町を中心とした会社の郵便物がドサツと持ち込まれて混雑する。

五十枚の日は特に混み、月末には、いく人かの中年から初老の人たちの行列もできる。ヘルメット、酒の匂い、地下足袋、わた人れのはんてん、無精ひげ。

日燃けた男たちは、筋肉質で背はあまり高くない。現金封筒で送金する。順番を待っていると、局員との会話がきこえてくる。

「おいくら入ってますか。」

「十万円。」

「おいくら入ってますか。」

「七万円。」

みることもなく封書の宛名が目に入る。雪の深い県外の穀倉地帯。

局員に告げる送金額が、十万円を超える人に、この三年間、ついでお目にかからなかった。

◇

神戸市と境を接するあたり、ドーナツ化の更に外側の地域。片側通行の、工事用信号機で待っている時、手拭いを頭にかぶった、農家の主婦らしい人が運転する軽自動車に数台すれちがった。土ぼこりが、もうもうと立ちこめていて、運転席からひよいと目をやると「あぶないから入ってはいけません」の貼紙がある崩れかけた農家があつて、銀色のプレートが軒下のうちつけられていた。ギョッとした。酸化して、ボロボロになっているが、文字だけは「出征」とはつきり読める。

そうだった。「奉公」というのもあった。なかでも「忠烈無窮」だけは金文字だった記憶がある。

◇

長男は「およげタイヤキ君」を

全部覚えてたらしい。彼と同じ年頃……親父は何を歌っていたか、腰の軍刀にすがりつき「あれもフォークソングかも知れん。あの頃は敵機に追いまわされ、逃げまわった。今度は追いつめる番にまわりたい。明智探偵は現代の少年の胸をもおどらせている。出てこい名探偵、二十面相の仮面を――。

シアトルの オーケストラ

小石忠男

△音楽評論家△



一月の下旬にアメリカ西部の都市シアトルへ出かけた。出発の前にはめつぽう寒いときかされてかなり心配したが、着いてみるとそれほどでもなく、神戸にいたのと同じ服装で街を歩いた。ここはわが国との貿易やアラスカ漁業の基地として特異な風物を誇っている。たとえば港の近くにはわが国から輸出された新品の自動車が、本当

に数えきれないほど並んでおり、漁船のたまりがある。ホテルにアラスカ物産を売る店もある。しかし神戸の製鋼所や造船所に匹敵するシアトルの大企業といえば、郊外にあるボーイング航空機の工場だろう。当節は不景気のあおりをくって、生産量はかつての数分の一に低下しているらしいが、人口でいうと周辺地域を入れても神戸市の半分くらいだから、街の人影も目立ってすくない。

ところがこのシアトルにはりっぱな文化センターがあり、収容力三千人のコンサート・ホール兼オペラ・ハウスがある。それなら神戸にも文化ホールや国際会館があるではないかと思う人もあらうが、シアトルのオペラ・ハウスには、そこをホームグラウンドとするシアトル交響楽団（一九〇三年創立）とシアトル・オペラ・アソシエーションが活動している。どちらも定期的に毎月数回の公演を行っており交響楽団はアメリカでも著名な指揮者ミルトン・ケイティムスを常任として実に意欲的な活動ぶりである。オペラのほうも負けてはいない。昨年、上演に四夜もかかるワーグナーの楽劇「ニーベルングの指環」のアメリカ初演を敢行したのは、シアトル・オペラである。それもドイツ語のオリジナルと英語訳の両方を上演するとい

う大胆さである。それが好評で、今年も再演されるという。

わが神戸にはこのシアトルの倍の人口がある。音楽会場も劣っていない。ところがオペラ団はおろかオーケストラもない。これでは音楽文化の向上は望めないということ、私はかつて神戸市政専門委員会での必要性を力説し、プロのオーケストラを組織することと並んで、その土壌づくりのためにも市がアマチュアの青少年オーケストラを育成することを要望した。残念ながら現在、そのどちらも実現されていない。いや、その後も郷土振興調査会の手によってオーケストラに関する調査が行われ、今年の一月にその報告書が完成したが、そこでは郷土文化を育てるオーケストラのアウトラインが、多角的に詳述されている。オーケストラが神戸に必要だという理由が述べられていることはいうまでもない。しかしそれが実現しないのは、結局は財源の問題であるという結論なのだ。

このような神戸から眺めると、シアトルは夢のような都会である。アメリカでもかなりすぐれたオーケストラがあるばかりか、オペラ団まで活躍している。とすると、神戸はシアトルよりも、そんなに経済力が劣っているのだろうか。そうとは思えない。交響楽団

ひとつの運営資金はその気があれば出るのではないか。

この神戸とシアトルは、来年には「姉妹都市」提携二十年を迎える。

思いのまま

花柳吉叟

△邦舞家△



母（花柳芳美）が師匠をしており、ますので生れた時から踊っていたらしく、稽古の時など、お弟子さんの真似をしては皆を笑わせた

りしていました。母は私にとって師匠であり、先輩であり、芸の話が遠慮なく話し合える友人でありますので、母の師である花柳芳隆師（故人）に師事するようになりました。

その後、十三才の時に内弟子として本格的に修業に入り、思えばその間（七年程）はつらい、厳しい、またその反面、友達との楽しい思い出が走馬燈のように想い出されます。

師匠は開放的で理解のある方でしたので、何でも新しい事をやらせていただける状態でしたし、先輩方の新作の時など、色々な役をさせていただいたことが良い勉強で私の血となり肉となりました。

邦舞界の人たちだけでなく、七年程前には洋舞（今岡領子さん、上月倫子さん）の方たちとも仕事を一緒にさせていただき、従来の邦舞とは何か異った面を吸収出来、大変うれしく思っております。

未熟者の私ではございますが、構成、演出、振付など一切を一人で試みたく、一昨年、創作「黒い血」を上演致しましたところ、お陰様で評論家の諸先生方にも大変おほめいただき、これからもこのような作品を続けていきたいと存じております。

神戸は山と海とが近く、その美しさは他所から帰って来た時など特に身にしみてやすらぎを覚ええます。元町、センター街、三宮など、色々と歩きますと何を見てもすべて舞踊の素材に見え、与えられた作品でなく、自ら企画の段階から生み出す作品を創りたいと願っております。この自然に恵まれた神戸に生れ、育った事を誇りとして今後共、皆々様の御指導、御鞭達をよろしくお願いいたします。

なんてきれいな…はる



顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL 331-1123



き
もの
と
細
貨

おんがら屋

神戸

本部・仕入部 神戸市東灘区青木五丁目一五〇一九 電話〇七八・四五二・五二九〇（代）
市街地改造により工事中 昭和五十二年未定
さんちか店 神戸市生田区三宮町一丁目一 電話〇七八・三三三・一七〇〇

東京

銀座コア店 東京都中央区銀座五丁目八二〇 電話 〇三・五七三・五二九八（代）
（四階きものコア）
渋谷東急店 東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 電話 〇三・四七七・三四〇九（直）
（五階和装名家街）
日本橋東急店 東京都中央区日本橋通二丁目九二 電話 〇三・二二一・〇五一（代）
（四階和装名家街）
池袋バルコ店 東京都豊島区南池袋一丁目二八二 電話 〇三・九八七・〇五六一（直）
（四階きもの小路）